

# 彙 報

会 長 梶 茂 樹

## ——常任委員会——

### 2013 年度第 1 回常任委員会

日 時：2013 年 5 月 18 日(土)11:00～17:00

場 所：日本言語学会事務支局（中西印刷学会フォーラム）

出席者：梶 茂樹（会長）、荻野綱男、窪菌晴夫、小林正人、田野村忠温、新田哲夫、米田信子（以上常任委員）、吉田和彦（事務局長）

オブザーバー：藤代 節（大会運営委員長）、酒井 弘（広報委員長）、加藤重広（夏期講座委員長）、吉田 豊（編集委員長代理）、内藤真帆、森 若葉（以上事務局長委員）

#### [報告事項]

#### (1) 今後の大会開催予定について

- ・以下の予定が報告された。
- 第 146 回大会（2013 年春季大会）：2013 年 6 月 15～16 日、茨城大学（大会実行委員長：岡崎正男氏）
- 第 147 回大会（2013 年秋季大会）：2013 年 11 月 23～24 日、神戸市外国語大学（大会実行委員長：武内紹人氏）
- 第 148 回大会（2014 年春季大会）：2014 年 6 月（予定）、法政大学（大会実行委員長：間宮厚司氏）
- 第 149 回大会（2014 年秋季大会）：2014 年 11 月（予定）、愛媛大学（大会実行委員長：塚本秀樹氏）
- 第 150 回大会（2015 年春季大会）：2015 年 6 月（予定）
- 第 151 回大会（2014 年秋季大会）：2015 年 11 月（予定）、名古屋大学

#### (2) 2012 年度科学研究費研究成果公開促進費について

- ・収支簿および実績報告書について、領収書並びに支払い記録等、関係証票書類に

基づき監査の結果、適正に処理されていたという経理担当者定延利之氏の報告が示された。

#### (3) 2013 年度科学研究費研究成果公開促進費（国際情報発信強化 B）について

- ・「国際学術ネットワークと電子的情報発信の強化のための組織的取組」という申請課題に対して、2013 年度の交付予定額が 3,400,000 円であることが報告された。なおこの事業を行うにあたり、調達に関するルールの整備に向けて手続中であることと『言語研究』144 号、145 号の出版（直接出版費に限る）に係る入札のスケジュールについて説明がなされた。

#### (4) 各種委員会からの報告

- ・彙報の各委員会の項目を参照。

#### (5) 言語系学会連合からの報告

- 言語学会選出の運営委員である窪菌晴夫氏から、つぎの報告があった。
- ・今年度は野田尚史氏（日本語教育学会）が運営委員長を務め、日本語教育学会が事務局を担当する。
- ・監査委員として日本言語学会からは小林正人氏が 2013 年 4 月より 2 年間担当する。
- ・今年度の事業として、前年度に引き続き「UALS ことばカフェ」を開催する。詳細は学会連合ホームページ (<https://sites.google.com/site/kotobacafeuals/home>) に示されている。

#### (6) 日本言語学会大会発表賞の選考結果について

- ・大会発表賞選考小委員会からの推薦に基づいて、第 145 回大会（2012 年 11 月）における大会発表賞が以下のように決定したことが会長より報告された。
- 江畑冬生「サハ語（ヤクート語）の勧誘形における「双数」の解釈」
- 長屋尚典「タガログ語の相互構文」
- 橋本大樹「単純語を基体として持つ短縮語形成と韻律構造」

山田敏幸「日本語の多重主語構文に対するカートグラフィーの観点からの分析」

#### (7) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトについて

2013年度のプロジェクト募集に対して応募がなかったことが報告された。

[審議事項]

- (1) 日本言語学会論文賞選考小委員会委員の選考について
  - ・2013年度の論文賞選考小委員6名について候補者が承認された。
- (2) 日本言語学会大会発表賞選考小委員会委員の選考について
  - ・2013年度の大会発表賞選考小委員4名について候補者が承認された。
- (3) 外部団体の活動への協力について
  - ・9月12日～14日に玉川大学で開催される日本認知科学会第30回大会について、後援依頼が大会委員長大森隆司氏とプログラム委員長関一夫氏からあり、承認された。
- (4) 日本言語学会大会発表規程の変更
  - ・規程の2の文言の見直しについて検討された。引き続き継続審議を行うことになった。
- (5) 東日本大震災の被災会員に対する会費免除について
  - ・前年度に引き続き、会費免除措置を継続することが承認された。
- (6) 2014年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（国際情報発信強化）の応募について
  - ・2014年度以降の科学研究費補助金研究成果公開促進費（国際情報発信強化）の計画調書の内容について審議した。
- (7) 日本言語学会大会発表賞について
  - ・大会発表賞にかかわるコストの負担や質保証などの問題点について、常任委員会内部の検討ワーキンググループから報告があり、それに基づき審議を行った。
- (8) 2012年度決算について
  - ・学会事務支局によって作成された2012年度決算について検討を行った。
- (9) 2013年度予算について
  - ・2013年度予算について審議し、常任委員会原案を作成した。
- (10) その他

・2013年7月に開催される国際言語学会議に日本言語学会代表として田窪行則氏を派遣することが了承された。

・法人格のない学会は納税義務があるが法律行為の権利がないという現行の問題点が示され、日本言語学会を法人化する可能性について審議された。引き続き継続審議を行う。

——評議員会——

2013年度第1回評議員会

日時：2013年6月15日(土)10:30～12:30

場所：茨城大学（水戸キャンパス）人文学部A棟201

出席者：梶 茂樹(会長)、加藤重広、佐々木冠、小泉政利、後藤 斉、井上史雄、上野善道、遠藤喜雄、生越直樹、風間伸次郎、木村秀樹、窪蘭晴夫、坂原 茂、砂川有里子、滝浦真人、中川 裕、長谷川信子、林 徹、早津恵美子、松村一登、峰岸真琴、北野浩章、呉人 恵、佐久間淳一、清水克正、玉岡賀津雄、栢植洋一、堀江 薫、町田 健、定延利之、佐藤昭裕、沈 力、野田尚史、藤代 節、益岡隆志、吉田和彦、吉田 豊、桐生和幸、塚本秀樹、青木博史、上山あゆみ、江口 正、久保智之（以上評議員42名）

委任状：22名

オブザーバー：井上 優、金水 敏（以上会計監査委員）、岡崎正男（大会実行委員長）、武内紹人（次回大会実行委員長）、内藤真帆、森 若葉（以上事務局委員）

議事に先立ち、3月10日に逝去された堀井令以知会員のご冥福をお祈りし、黙祷が行われた。また会長より開催校である茨城大学に対する謝意が表された後、大会実行委員長の岡崎正男氏より挨拶があった。

[報告事項]

(1) 今後の大会開催予定について

・以下の予定が報告された。

第147回大会（2013年秋季大会）：2013

- 年 11 月 23～24 日, 神戸市外国語大学 (大会実行委員長: 武内紹人氏)
- 第 148 回大会 (2014 年春季大会): 2014 年 6 月 7～8 日, 法政大学 (大会実行委員長: 間宮厚司氏)
- 第 149 回大会 (2014 年秋季大会): 2014 年 11 月 (予定), 愛媛大学 (大会実行委員長: 塚本秀樹氏)
- 第 150 回大会 (2015 年春季大会): 2015 年 6 月 (予定)
- 第 151 回大会 (2015 年秋季大会): 2015 年 11 月 (予定), 名古屋大学 (大会実行委員長: 未定)
- ・ 147 回大会の開催校を代表して武内紹人大会実行委員長から挨拶があった。
- (2) 科学研究費研究成果公開促進費について
- ・ 2012 年度科学研究費研究成果公開促進費 (交付額 160 万円) について, 経理担当者の定延利之氏から, 監査の結果, 適正に処理されていたことが報告された。
  - ・ 2013 年度科学研究費研究成果公開促進費について, 国際情報発信強化 (B) という種目に「国際学術ネットワークと電子的情報発信の強化のための組織的取組」という課題で申請したところ, 340 万円が単年度で認められたという報告がなされた。なお, 『言語研究』144 号, 145 号の出版契約を中西印刷と結んだことも報告された。
- (3) 各種委員会報告
- ・ 本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 言語系学会連合について
- 言語学会選出の運営委員である窪菌晴夫氏から, 2012 年度の活動報告と 2013 年度の事業計画について報告があった。
- ・ 2013 年度は野田尚史氏 (日本語教育学会) が委員長を務め, 日本語学会からは小林正人氏が監査委員を担当する。
  - ・ 2012 年度に引き続き「UALS ことばカフェ」の開催が主な事業となる。
- (5) 日本語学会大会発表賞の選考結果について
- ・ 大会発表賞選考小委員会からの推薦に基づいて, 第 145 回大会 (2012 年秋季大会) の研究発表について, 選考結果が報告された。
- 江畑冬生「サハ語 (ヤクト語) の勧誘形における「双数」の解釈」
- 長屋尚典「タガログ語の相互構文」
- 橋本大樹「単純語を基体として持つ短縮語形成と韻律構造」
- 山田敏幸「日本語の多重主語構文に対するカートグラフィーの観点からの分析」
- (6) 日本語学会論文賞選考小委員会委員の選考について
- ・ 2013 年度の論文賞選考小委員 6 名の選考結果が報告された。
- (7) 日本語学会大会発表賞選考小委員会委員の選考について
- ・ 2013 年度の大会発表賞選考小委員 4 名の選考結果が報告された。
- (8) 外部団体の活動への協力について
- ・ 2013 年 9 月 12～14 日に玉川大学視聴覚センターにおいて開催される日本認知科学会第 30 回大会, および 2013 年 10 月 26～27 日に鈴鹿医療科学大学にて開催される日本手話学会第 39 回大会の開催について, 日本語学会からの後援を受けたいという依頼があり, 常任委員会で審議した結果, 承認されたことが報告された。
- (9) 東日本大震災の被災会員に対する 2012 年度会費免除について
- ・ 13 名の会員 (通常会員 9 名, 学生会員 4 名) に対して会費免除を行ったことが報告された。
- (10) 大会における手話通訳者の手配について
- ・ 前回の評議員会の決定を受けて, 今回の大会プログラムより手話通訳に関する情報を掲載したことが報告された。なお, 今大会には 2 日目の公開シンポジウムに聾者 3 名が参加するので, 手話通訳者の手配を行ったという報告がなされた。
- (11) その他
- ・ 日本語学会大会発表規程の変更について

大会発表規程の第2項について、現在の規程では共同発表の場合非会員であっても口頭発表を行うことができるという問題について常任委員会で審議中であることが報告された。

・大会発表賞について

大会発表賞にかかわるコストの負担や質保証などの問題点について、常任委員会内部の検討ワーキンググループから報告に基づき、審議が重ねられていることが報告された。今後も引き続き常任委員会で検討していく。

・学会法人化について

「法人格のない学会は納税義務があるが法律行為（法律上の権利義務の変動を生じせしめる行為、ものの売買、ひとの雇用など）の権利がない」という現行の問題点および関連する事柄について常任委員会で検討中であり、この問題について7月3日に会長と事務局長が税理士と面談することが報告された。

についてははかられ、承認された。ただし、かりに申請が認められた場合であっても、評議員会の議を経て実施していく。

(4) 調達に関する規程について

・調達に関するルールを整備する必要があり、入札方法について定められた日本語学会調達規程（案）についてははかられた結果、承認された。

(5) 2012年度決算について

・2012年度決算案について説明がなされた後、金水敏会計監査委員より適正との報告があり承認された。【別表1参照】

(6) 2013年度予算について

・2013年度予算案について説明がなされた後、承認された。【別表2参照】

(7) その他

・基金の内訳について

日本語学会の基金について、従来 of 年度ごとの内訳を廃して、目的別の内訳に一元化することについてははかられた結果、承認された。

[審議事項]

(1) 東日本大震災の被災会員に対する2013年度会費免除について

・東日本大震災により被害を受けられた会員について、前年度に引き続き2013年度の会費を免除することについてははかられ、承認された。

(2) 国際言語学者会議への代表の派遣について

・2013年7月に開催される国際言語学者会議に日本語学会代表として田窪行則氏を派遣することについてははかられ、承認された。また、『言語研究』に掲載される会議報告の原稿執筆も同氏に依頼することになった。

(3) 2014年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（国際情報発信強化）の応募について

・本年秋に提出する来年度以降の申請内容については、国際情報発信をより一層強化するために、本年度に実施する取組からさらに一歩踏み込んだ内容にすること

——編集委員会——

2013年度第1回編集委員会

日時：2013年4月20日(土)13:30～16:30

場所：東京大学文学部言語学研究室

出席者：上山あゆみ、久保智之、藏藤健雄、小森淳子、田中ゆかり、西村義樹、林徹（委員長）、Timothy J. Vance、吉田 豊、鷲尾龍一、梅谷博之（委員長補佐・オブザーバー）

[報告事項]

(1) 143号が刊行されたこと、および144号の編集作業の状況について報告された。

[審議事項]

(1) 過去1年間の編集作業において、著者からの問い合わせ等により、執筆要項の改訂の必要が感じられるケースがあった。それらを踏まえ、部分的に改訂する案を検討し、さらに審議を継続することとした。

- (2) 同一著者からの複数の投稿があった場合、ひとつ目の投稿の審査が終わるのを待ってから、ふたつ目の投稿を受け付けるように、投稿規程を改める必要があるかどうかについて検討した。複数の投稿を一律に制限することの問題点が指摘され、編集委員長の判断に委ねることとし、投稿規程の改訂はおこなわないこととした。
- (3) 審査作業が遅れ気味であることを解消するため、審査結果の取りまとめを中心に、作業手順の一部を検討し、変更することとした。
- (4) 過去2年間の掲載論文を検討し、今年度の日本言語学会論文賞選考小委員会委員候補者を選出した。
- (5) 昨年度の刊行に協力していただいた査読者へのお礼について審議し、以下を決定した。
- (a) 原稿の採用／不採用に拘わらず、委員長からお礼のメールを出す。
- (b) 非会員で査読を引き受けていただいた人には、査読した論文が掲載された場合は論文が掲載された号を送る。また、査読した論文が掲載されたか否かに拘わらず、147号(査読者の名前が巻末に掲載される号)を送る。

[編集委員会後のメーリングリストでの審議等]

- (1) 今年度科学研究費補助金の執行計画について、編集委員会としての案を常任委員会に提案した。
- (2) 現在在外会員に船便で『言語研究』が送られているため、地域によっては約半年後に届けられている現状について検討し、今後航空便あるいはSAL便を利用することを評議員会に提案した。

——大会運営委員会——

2013年度第1回大会運営委員会

日時：2013年4月6日(土)11:00～16:00  
場所：茨城大学(水戸キャンパス)人文学部

出席者：藤代 節(大会運営委員長)、青木博史、河内一博、齋藤倫明、芝垣亮介、滝浦真人、玉岡賀津雄、張 麟声、野村益寛、本間 猛、宮本陽一、米田信子(以上、大会運営委員)、岡崎正男(大会実行委員長)、永井典子、西山國雄、藤井文男(以上、大会実行委員)

[報告事項]

- (1) 大会運営委員会から選ばれた大会発表賞選考小委員につき、今年度の候補を会長に推薦したことが報告された。
- (2) 第145回大会(九州大学)の反省点と第146回大会(茨城大学)の準備状況が報告された。

[審議事項]

- (1) 第146回大会の応募要旨の審査を行い、口頭発表56件(応募71件)、ポスター発表4件(応募4件)、ワークショップ2件(応募2件)を採択した。
- (2) プログラムの編成を行い、口頭発表の司会依頼先を検討した。
- (3) 研究発表応募受付時の問題点について対策を検討した。1)応募時に提出する「発表要旨」(A4紙片面1枚)と発表採用後に提出する「大会発表要旨」(和文400字もしくは英文120語)の作成要領の取り間違いが散見されるので、学会HPに適宜、注意喚起の添え書きをすることにした。2) 応募書類受付後、事務支局から自動送信する応募受付確認メールの受信不具合に注意を喚起する添え書きをHPに施すことにした。
- (4) 研究発表応募規程で「筆頭発表者」の役割が明示できないかを検討した結果、発表形態を一様に規定できないので、現行の規程などを変更することは難しいと

いう意見で一致した。

が承認されたことが報告された。

[大会実行委員会との打ち合わせ]

- (1) 会場校から説明を受け、各種会場設営、懇親会運営、使用機器、プログラム掲載情報などについて検討、確認を行い、会場予定の学舎、講義室などを見学した。

### ——広報委員会——

- ・学会 HP の大会応募フォームの修正（キーワード欄の追加など）作業を実施するとともに、応募システムを中西印刷のサーバーに移行する作業を実施した。
- ・新たに刊行された『言語研究』143号の目次及び論文要旨を HP に掲載するとともに、刊行より1年を経過した号に掲載された論文について、全文を HP からダウンロードできるように、順次作業を進めた。
- ・学会関連情報（役員の交替、規程の変更、論文賞・大会発表賞の決定、『言語研究』特集号論文の募集、公募情報、研究会情報など）を逐次学会 HP に掲載した。

### ——夏期講座委員会——

#### 2013 年度夏期講座委員会

日 時：2013 年 6 月 14 日(金)13:00～16:40  
場 所：北海道大学東京オフィス大会議室  
出席者：加藤重広（委員長）、佐久間淳一、下地理則、西村義樹、橋本喜代太

- (1) 夏期講座 2014 を、名古屋大学で 2014 年 8 月 18 日（月）から 23 日（土）まで開催することとし、開講科目と講師候補を確定した(実行委員長・佐久間淳一氏)。
- (2) 特別講演を前回に引き続き、開催することとし、講師候補を確定した。
- (3) 佐久間委員より会場校の準備状況が報告され、現状で大きな問題がないことが確認された。
- (4) 実行委員会の引き継ぎ、登録システムの整備について、意見交換を行った。
- (5) 橋本委員と堀川委員の後任に、小野創氏（近畿大学）と宮本陽一氏（大阪大学）

### ——小委員会——

#### 大会発表賞選考小委員会

- ・2013 年 5 月 17 日（月）にトラスティカンファレンス・丸の内会議室（東京駅）において 2013 年度第 1 回の会合を開き、第 146 回大会（茨城大学）での大会発表賞の審査対象発表と審査手順を決定した。
- ・2013 年 7 月 11 日（木）に東京都立産業貿易センター会議室（浜松町）において 2013 年度第 2 回の会合を開き、第 146 回大会（茨城大学）での大会発表賞の受賞候補発表を選考した。その結果を 7 月 18 日に会長へ報告した。

### ——事務局——

#### 2012 年度会計監査

日 時：2013 年 5 月 8 日(水)11:00～13:00  
場 所：日本言語学会事務支局（中西印刷学会フォーラム）  
出席者：井上 優、金水 敏（以上前会計監査委員）、梶 茂樹（会長）、吉田和彦（事務局長）、糸魚川共子（事務支局）

井上優、金水敏両委員により 2012 年度決算書と関係書類について監査が実施された。

#### その他

- ・2012 年度科学研究費研究成果公開促進費の監査が、常任委員の経理担当者である定延利之氏により実施され、適正との報告があった(2013 年 5 月 14 日(火)、神戸大学)。

【別表 1】2012 年度日本言語学会決算

自 2012 年 4 月 至 2013 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,216,000	刊 行 費	4,217,115
雑 誌 売 上	1,282,400	発 送 費	407,020
科学研究費補助金	1,600,000	事 務 委 託 費	4,284,000
科学研究費補助金利息	89	大 会 関 係 費	3,711,195
預 金 金 利	2,220	評 議 員 会 費	212,265
大会関係収入	2,149,250	常 任 委 員 会 費	754,260
広 告 料	255,000	編 集 委 員 会 費	632,170
雑 収 入	0	大会運営委員会費	612,313
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	260,160
基金から繰り入れ	750,000	夏期講座委員会費	10,960
夏期講座準備費返納	1,216,932	事 務 局 費	835,120
		学 会 賞 費	160,560
		多様性プロジェクト(公募型)費	0
		夏期講座準備費	500,720
		言語系学会連合費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL 言語学文献一覽編集補助	121,200
		通 信 費	543,926
		消 耗 品 費	337,164
		雑 費	29,386
		名 簿 作 成 費	1,668,922
		選 挙 関 係 費	0
		学会賞小委員会費	633,384
		予備費(基金への繰入)	0
		名 簿 作 成 積 立 金	800,000
		選 挙 関 係 積 立 金	300,000
		多様性プロジェクト(公募型)積立金	0
		夏期講座積立金	0
収 入 合 計	20,471,891	支 出 合 計	21,201,840
前 期 繰 越 金	9,529,551	次 期 繰 越 金	8,799,602
計	30,001,442	計	30,001,442

◇収入内訳（単位：円）

会費

国内通常会員	11,681,500
国内維持会員	120,000
国内学生会員	648,000
国内団体会員	609,000
国内賛助会員	60,000
在外通常会員	89,500
在外学生会員	8,000

---

合 計 13,216,000

雑誌売上

書店販売	1,270,400
三省堂書店	31,500
松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	968,000
丸善	201,600
その他書店	69,300
事務局販売	12,000

---

合 計 1,282,400

科学研究費補助金

1,600,000

科学研究費補助金利息

89

預金金利

2,220

大会関係収入

大会出店料	175,000
144 回大会 1 スペース 1 日（3 社）	15,000
1 スペース 2 日（8 社）	80,000
145 回大会 2 スペース 2 日（1 社）	20,000
1 スペース 2 日（6 社）	60,000
予稿集売上	1,943,500
144 回大会	1,118,000
145 回大会	740,000
事務局（バックナンバー）	85,500
託児関係収入	30,750

---

合 計 2,149,250

広告料

255,000

基金からの繰り入れ

750,000

夏期講座準備費返納

1,216,932

## ◇支出内訳（単位：円）

刊行費		印刷部数	各号共に 2,300 部
内 訳	142 号 (238 p.)	143 号 (198 p.)	計 (436 p.)
印刷費	2,286,900	1,890,000	4,176,900
抜刷代	24,570	15,645	40,215
合 計	2,311,470	1,905,645	4,217,115

※割付・校正料は印刷費に含む

## 発送費

『言語研究』一斉発送料	142 号	190,300
	143 号	216,720
合 計		407,020

## 事務委託費

4,284,000

2012 年 4 月分～2013 年 3 月分  
日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

## 大会関係費

内 訳	第 144 回	第 145 回	計
プログラム印刷費	105,000	105,000	210,000
ポスター印刷費	109,200	109,200	218,400
予稿集印刷費	812,246	998,550	1,810,796
その他印刷費 / 備品	33,075	27,300	60,375
大会関係発送費	166,163	156,893	323,056
大会費	289,007	526,653	815,660
講師謝金等	80,000	40,000	120,000
託児関係費	52,088	0	52,088
手話通訳謝礼	40,820	0	40,820
大会実行委員長経費補助	30,000	30,000	60,000
合 計	1,717,599	1,993,596	3,711,195

※ポスター印刷費はポスターデザイン代を含む。

## 評議員会費

会議費（年 2 回）	157,665
資料印刷費	54,600
合 計	212,265

## 常任委員会費

旅費（年 2 回）	670,960
会議費（年 2 回）	72,800
通信費（ML 作成費用）	10,500
合 計	754,260

**編集委員会費**

旅費（年1回＋出張校正等）	268,440
会議費（年1回）	4,200
英文校閲費	60,000
アルバイト費（編集補助）	240,000
通信費	40,000
備品（編集用ソフト購入）	19,530

---

合 計 632,170

**大会運営委員会費**

旅費（年2回）	569,750
会議費（年2回）	37,313
通信費（ML作成費用）	5,250

---

合 計 612,313

**広報委員会費**

バックナンバー PDF リンク作業	83,160
ホームページ保守管理費	105,000
webmaster 経費補助	72,000

---

合 計 260,160

**夏期講座委員会費**

旅費（年1回）	10,960
---------	--------

**事務局費**

旅費（引き継ぎ，会計監査，出張費）	235,120
事務局長，事務局委員活動費	600,000

---

合 計 835,120

**学会賞関係費**

論文賞副賞（1件）	50,000
大会発表賞副賞（4件）	40,000
旅費補助（2件）	70,560

---

合 計 160,560

**多様性プロジェクト（公募型）費**

0

**夏期講座経費**

夏期講座経費補助	500,000
応嘱依頼状発送費	720

---

合 計 500,720

**言語系学会連合費**

50,000

<b>CIPL 負担金</b>	
2012 年度負担金	120,000
<b>CIPL 言語学文献一覧編集補助</b>	121,200
<b>通信費</b>	
切手購入、通常発送費	64,288
みずほ銀行ビジネス Web 使用料	25,200
会費請求・督促状送料	273,704
カード手数料・送金手数料・残高証明発行手数料	102,385
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	40,455
大会関係送料（プログラム、ポスター以外）	34,389
その他（文科省提出書類発送等）送料	3,505
合 計	543,926
<b>消耗品費</b>	
文房具購入費	21,574
振替用紙印刷費	65,283
封筒印刷費	223,427
処理票	14,700
印章作成費	12,180
合 計	337,164
<b>雑費</b>	
西田龍雄先生供花、弔電	22,186
機密文書リサイクルサービス利用料	7,200
合 計	29,386
<b>名簿作成費</b>	
会員名簿印刷費	1,270,500
会員名簿発送費用	398,422
合 計	1,668,922
<b>学会賞小委員会費</b>	
旅費（年 4 回）	593,680
会議費（年 4 回）	35,504
賞関係文具購入	4,200
合 計	633,384
<b>基金への繰入</b>	
名簿作成積立金	800,000
選挙関係積立金	300,000
合 計	1,100,000

◇ 2012 年度決算 予算・実績対照表

収入 (単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会費	13,000,000	13,216,000	216,000
雑誌売上	500,000	1,282,400	782,400
科学研究費補助金	1,600,000	1,600,000	0
科学研究費補助金利息	0	89	89
預金金利	3,000	2,220	△ 780
大会関係収入	1,600,000	2,149,250	549,250
広告料	0	255,000	255,000
雑収入	0	0	0
雑益	0	0	0
基金からの繰入	750,000	750,000	0
夏期講座準備費返納	0	1,216,932	1,216,932
収入合計	17,453,000	20,471,891	3,018,891
前期繰越金	9,529,551	9,529,551	0
合計	26,982,551	30,001,442	3,018,891

支出 (単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊行費	5,153,800	4,217,115	936,685
発送費	600,000	407,020	192,980
事務委託費	4,284,000	4,284,000	0
大会関係費	4,500,000	3,711,195	788,805
評議員会費	300,000	212,265	87,735
常任委員会費	800,000	754,260	45,740
編集委員会費	700,000	632,170	67,830
大会運営委員会費	800,000	612,313	187,687
広報委員会費	700,000	260,160	439,840
夏期講座委員会費	200,000	10,960	189,040
事務局費	1,000,000	835,120	164,880
学会賞	700,000	160,560	539,440
多様性プロジェクト(公契型)費	0	0	0
夏期講座準備費	1,200,000	500,720	699,280
言語系学会連合費	150,000	50,000	100,000
C I P L 負担金	120,000	120,000	0
C I P L 言語学文献一覧編集補助	200,000	121,200	78,800
通信費	700,000	543,926	156,074
消耗品費	400,000	337,164	62,836
雑費	100,000	29,386	70,614
名簿作成費	2,100,000	1,668,922	431,078
選挙関係費	0	0	0
学会賞小委員会費	350,000	633,384	△ 283,384
予備	824,751	0	824,751
(基金への繰入)	—	—	0
名簿作成積立金	800,000	800,000	0
選挙関係積立金	300,000	300,000	0
多様性プロジェクト(公契型)積立金	0	0	0
夏期講座積立金	0	0	0
支出合計	26,982,551	21,201,840	5,780,711
次期繰越金	0	8,799,602	△ 8,799,602
合計	26,982,551	30,001,442	△ 3,018,891

## ◇資産勘定

2013年3月31日(単位:円)

借方	金額	貸方	金額
事務支局		前受会費	
現金	292,052	国内通常	98,000
みずほ銀行口座	1,736,442	国内学生	64,000
郵便振替口座	8,045,715	国内団体	0
カード	0	在外個人	0
夏期講座委員会口座	315	在外学生	0
未収金*	1,223,000	前受購読料	182,700
		未払金**	2,153,222
		次期繰越	8,799,602
計	11,297,524	計	11,297,524

\* 未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。

2012年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内訳	金額
『言語研究』売上げ(松香堂取次分)	968,000
広告料(会員名簿)	255,000
合計	1,223,000

\*\* 未払金は当該年度内の支出が間に合わなかった場合の科目。

2012年度決算の未払金の内訳は以下の通り。

内訳	金額
『言語研究』第143号刊行費	1,890,000
『言語研究』第143号発送費	216,720
『言語研究』第143号別刷代	15,645
発送用封筒	30,857
合計	2,153,222

基金 決算 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計(前期繰越)	11,873,558	一般会計へ支出	750,000
一般会計から繰入	1,100,000		
定期預金金利	769		
収入合計	12,974,327	支出合計	750,000
		次期繰越金	12,224,327
計	12,974,327	計	12,974,327

基金 資産勘定 2013年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	8,400,000	積立金	12,224,327
京都銀行定期預金口座	3,824,327		
計	12,224,327	計	12,224,327

○基金内訳(目的別)

記念大会積立金

2013年3月31日 (単位：円)

2004年度\* 1,000,000

2003年度 1,200,000

2002年度 400,000

2001年度 400,000

2000年度 400,000

夏期講座積立金

2011年度 500,000

2010年度 700,000

2004年度\*\*\* 2,000,000

危機言語プロジェクト積立金

2005年度 300,000

2004年度 402,449

e-ジャーナル積立金

2009年度 500,000

2004年度\* 1,000,000

2003年度 1,000,000

言語学普及積立金

2009年度 500,000

多様性プロジェクト(公募型)積立金

2011年度 500,000

2010年度 300,000

選挙関係積立金

2012年度 300,000

名簿作成積立金

2012年度 800,000

預金利子累積分\*\*\*

21,878

計

12,224,327

## ○基金内訳（銀行別）2013年3月31日（単位：円）

銀行名	預かり番号	名目	金額
みずほ銀行	055	2012年度選挙関係積立金	300,000
みずほ銀行	054	2012年度名簿作成積立金	800,000
みずほ銀行	052	2011年度夏期講座積立金	500,000
みずほ銀行	053	2011年度多様性プロジェクト（公募型）積立金	500,000
みずほ銀行	051	2010年度夏期講座積立金	700,000
みずほ銀行	050	2010年度多様性プロジェクト（公募型）積立金	300,000
みずほ銀行	044	2009年度e-ジャーナル積立金	500,000
みずほ銀行	047	2009年度言語学普及積立金	500,000
みずほ銀行	039	2005年度危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	002	2004年度記念大会積立金*	1,000,000
みずほ銀行	035	2004年度夏期講座積立金**	600,000
京都銀行	002	2004年度夏期講座積立金***	1,400,000
京都銀行	001	2004年度危機言語プロジェクト積立金	402,449
京都銀行	002	2004年度e-ジャーナル積立金*	1,000,000
みずほ銀行	038	2003年度記念大会積立金	1,200,000
みずほ銀行	037	2003年度e-ジャーナル積立金	1,000,000
みずほ銀行	028	2002年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	025	2001年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	021	2000年度記念大会積立金	400,000
京都銀行	(002)	預金利子累積分***	21,878
計			12,224,327

\* 2004年度記念大会積立金1,000,000円、2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円、2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円は京都銀行定期（預金番号002）に一括して積立。

\*\* 2004年度夏期講座積立金は、みずほ銀行定期（預金番号035）に600,000円、京都銀行定期（預金番号002）に1,400,000円積立。

\*\*\* 京都銀行定期（預金番号002）に一括積立の2004年度記念大会積立金1,000,000円、2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円、2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円の利息。

【別表2】2013年度日本語学会予算

自 2013年4月 至2014年3月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,000,000	刊 行 費	5,300,000
雑 誌 売 上	500,000	発 送 費	600,000
科学研究費補助金	3,400,000	事 務 委 託 費	4,284,000
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	4,500,000
預 金 金 利	2,000	評 議 員 会 費	300,000
大会関係収入	1,600,000	常 任 委 員 会 費	800,000
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	2,800,000
雑 収 入	0	大 会 運 営 委 員 会 費	900,000
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	700,000
基金からの繰り入れ	0	夏 期 講 座 委 員 会 費	200,000
夏期講座準備費返納	0	事 務 局 費	1,000,000
		学 会 賞 費	400,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	0
		夏 期 講 座 経 費	0
		言 語 系 学 会 連 合 費	150,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL 言 語 学 文 献 一 覧 編 集 補 助	200,000
		通 信 費	700,000
		消 耗 品 費	400,000
		雑 費	100,000
		名 簿 作 成 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		学 会 賞 小 委 員 会 費	700,000
		予 備 費	1,277,602
		( 基 金 へ の 繰 入 )	—
		名 簿 作 成 積 立 金	800,000
		選 挙 関 係 積 立 金	300,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	0
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
収 入 合 計	18,502,000	支 出 合 計	27,031,602
前 期 繰 越 金	8,799,602	収 支 差 額 (次 期 繰 越 金)	0
合 計	27,301,602	合 計	27,031,602

## 第 146 大会

期日 2013 年 6 月 15 日 (土)・6 月 16 日 (日)

会場 茨城大学

公開シンポジウム 6 月 16 日 (日) 13:40～16:20

「アジアとアフリカの言語地域」

司会 西山 國雄

コメンテーター ジョン ホイットマン

類型なのか、言語地域なのか？

—日本語は北東アジアの言語なのか？—

風間伸次郎

動詞中置はクレオール化に於ける必然なのか？

—言語地域としての大陸東南アジア—

藤井 文男

内的要因か、外的要因か、両方か？

—東インドネシア言語の一致形態素の発達—

西山 國雄

アフリカの言語地域と言語地域としてのアフリカ

河内 一博

## 口頭発表

—第 1 日 (6 月 15 日 (土)) 13:00～18:00—

## 。A 会場

- (A 1) 13:00～ 「私—市長 私—だった」：ナワトル語における名詞の指示対象人称標示 佐々木充文
- (A 2) 13:35～ 「父は並ぶもののない長者だった」—アイヌ語における関係節を用いた最上級表現— ブガエワ アンナ
- (A 3) 14:15～ ラマホロット語の二つの所有標識と名詞化 長屋 尚典
- (A 4) 14:50～ レアリティ概念からみたインドネシア語の *kalau*・*jika*・*bila* 条件文の用法 アリ アルタディ
- (A 5) 15:40～ サハ語 (ヤクート語) の引用における対格名詞句 江畑 冬生
- (A 6) 16:15～ エヴェンキ語に複合語はあるのか—名詞句内の語結合の方法について 松本 亮
- (A 7) 16:55～ モンゴル語における *preverb* と動詞との間の結合度 梅谷 博之
- (A 8) 17:30～ 満洲語文語の可能表現に見る文法化の展開 山崎 雅人

## 。B 会場

- (B 1) 13:00～ 英語の *by way of* から見る多義と同音異義 平沢 慎也
- (B 2) 13:35～ 「V 落とす」と「V 漏らす」における意味的制約：概念メタファーの観点から 森 博
- (B 3) 14:15～ 形容詞の肯定・否定のスケール性に関わる意味・機能変化に関する一考察—日本語形容詞「やばい」を中心に— 阪口 慧
- (B 4) 14:50～ Language-specific patterns of motion event description by Japanese and German speakers Naoko TOMITA
- (B 5) 15:40～ 借用語における形態素脱落の実態：-*edl*-*ing* の場合 眞野 美穂  
樋口 薫乃
- (B 6) 16:15～ 語彙的複合動詞の自他交替—他動詞化・再帰化を中心に— 日高 俊夫
- (B 7) 16:55～ The distribution of zero particles and markedness in Japanese dialects Natsuko NAKAGAWA

(B 8)	17:30 ~	ヤスイ・ニクイの意味決定に関与する「性質の帰属先」	鈴木 基伸
。C会場			
(C 1)	13:00 ~	仮定複文接続表現の日中対照—“如果p, 就q”, “如果p, 那么q”, “如果说p, 那么q” 構文を中心に—	馬 一川
(C 2)	13:35 ~	中国人日本語学習者による物理・精神活動動詞に対する格助詞「ニ」と「ヲ」の習得	早川 杏子 玉岡賀津雄
(C 3)	14:15 ~	中国人日本語学習者の場所を表す格助詞「で」と「に」の習得に及ぼす諸要因	初 相娟 初 相娟 玉岡賀津雄
(C 4)	14:50 ~	韓国人日本語学習者による漢語サ変動詞の処理に及ぼす母語の影響—眼球運動による測定	早川 杏子 朴 善嫻 玉岡賀津雄
Michael Mansbridge			
(C 5)	15:40 ~	「の(だ)」文と「わけ(だ)」文の比較：命題選択の観点から	五十嵐啓太
(C 6)	16:15 ~	クナイ・ジャンナイの縮約率の分析—一般化線形混合モデルを用いて—	原田 幸一
(C 7)	16:55 ~	オントロジー体系を用いた名詞述語文の意味記述	今田 水穂
(C 8)	17:30 ~	移動を表す複合動詞「V + 込む」の統語的分析	秋本 隆之
。D会場			
(D 1)	13:00 ~	中国黒竜江省尚志市で話される朝鮮語の複合語アクセント	李 文淑
(D 2)	13:35 ~	韓国語ソウル方言の平音・激音・濃音の実験音声学的研究—先行母音と後続母音における高さ、強さ、およびフォルマントの時間的変化について—	韓 喜善
(D 3)	14:15 ~	韓国語の麗水突山方言の用言のアクセント	姜 英淑
(D 4)	14:50 ~	韓国語巨済方言のアクセント	孫 在賢
(D 5)	15:40 ~	鳥取県倉吉方言における名前のアクセントの変化—中大型アクセントの消失—	儀利古幹雄 桑本 裕二
(D 6)	16:15 ~	幼児の連濁の獲得に関する横断的研究—語種とライマンの法則を中心に	杉本 貴代
(D 7)	16:55 ~	マレー語における愛称語形成と韻律構造	橋本 大樹
(D 8)	17:30 ~	商標登録における音声的類似—予備的考察—	上田 功 江戸 智美
。E会場			
(E 1)	13:00 ~	日本と中国における依頼行為のとらえ方—ボライトネスの観点から—	張 瑞豊
(E 2)	13:35 ~	再依頼における日本語と中国語のボライトネス・ストラテジーの違い	曹 芳 田中 大輝
(E 3)	14:15 ~	日本語と韓国語の「否定の応答文」における述語形式のズレ	高 恩淑
(E 4)	14:50 ~	米国大統領演説におけるレスポンス誘出のための発話連鎖の連結—話し手と聴衆間のインタラクションの視点から—	岩井恵利奈

- |        |         |   |  |
|--------|---------|---|--|
| (E 5)  | 15:40 ~ | カクチケル語の基本語順と選好語順の関係について   | 安永 大地<br>矢野 雅貴<br>小泉 政利<br>八杉 佳穂         |
| (E 6)  | 16:15 ~ | 依存関係の構築における予測処理について—ERP を指標とした日本語譲歩文の研究—  | 立山 憂<br>矢野 雅貴<br>坂本 勉                    |
| (E 7)  | 16:55 ~ | gap-filler 依存関係の処理について—文脈を用いた日本語分裂文の ERP 研究—  | 矢野 雅貴<br>立山 憂<br>坂本 勉                    |
| (E 8)  | 17:30 ~ | 否定 why 疑問文の習得に関する縦断研究   | 深谷 修代                                    |
| ◦ F 会場 |         |   |  |
| (F 1)  | 13:00 ~ | Clausal arguments in Irish  | Hideki MAKI<br>Dónall P. Ó BAOILL        |
| (F 2)  | 13:35 ~ | Quantifier interactions in modern Mongolian   | Lina BAO<br>Megumi HASEBE<br>Hideki MAKI |
| (F 3)  | 14:15 ~ | モンゴル語の間接疑問縮約構文に関する研究：格一致効果の観点から   | 坂本 祐太                                    |
| (F 4)  | 14:50 ~ | 文断片の直接生成分析—トルコ語目的語からの証拠—  | 永次 健人<br>菅沼健太郎                           |
| (F 5)  | 15:40 ~ | 副詞節内における演算子の派生に関する考察  | 前田 晃寿                                    |
| (F 6)  | 16:15 ~ | 日本語の時制形態素の Lexicalist 的分析   | 平田 一郎                                    |
| (F 7)  | 16:55 ~ | 極小主義モデルに基づく空移動仮説：wh 疑問文における主語と目的語の非対称性について  | 田口 祐衣                                    |
| (F 8)  | 17:30 ~ | 指定的疑似分裂文の派生：カートグラフィー・アプローチ  | 遠藤 喜雄<br>岩崎 永一                           |
| ◦ G 会場 |         |   |  |
| (G 1)  | 13:00 ~ | Different Triggers for Successive-Cyclic Movement in Sinhalese and Japanese <i>Wh</i> -questions        | Hisashi MORITA                           |
| (G 2)  | 13:35 ~ | External Cause and the Structure of <i>vP</i> : A Case from <i>Sar(u)</i> Expressions in Iwate Dialects | Fumikazu NIINUMA<br>Hideya TAKAHASHI     |
| (G 3)  | 14:15 ~ | Licensing Null Associative Plurals in Kaqchikel   | Junya NOMURA                             |
| (G 4)  | 14:50 ~ | A-reconstruction as a type-sensitive phenomenon   | Yoshiyuki SHIBATA                        |
| (G 5)  | 15:40 ~ | ジンボー語における成節鼻音の声調について  | 倉部 慶太                                    |
| (G 6)  | 16:15 ~ | ノルウェー語 Sandnes (サンネス) 方言における「アクセント句」と「句音調」の提唱   | 三村 竜之                                    |
| (G 7)  | 16:55 ~ | 注意概念を用いたソ系の直示用法と非直示用法の統一的分析   | 平田 未季                                    |
| (G 8)  | 17:30 ~ | 交差分類と述語論理による 5 文型の再編成   | 川嶋 正士                                    |

ワークショップ

—第2日 (6月16日(日)) 10:00～12:00—

ワークショップ1 (A会場)

“Syntactic Structure and the Interpretation of Tense and Aspect”

Workshop Moderator & Organizer: Nobuko HASEGAWA

Tenses and Sequences of Tenses: When Past doesn't Past-shift Tim STOWELL

Tense and Aspect of Japanese Root Modals Satoshi TOMIOKA

Clause Types, Predicate Types, and Tense Interpretation Nobuko HASEGAWA

in Japanese

ワークショップ2 (E会場)

「ユーラシア北東部諸言語の名詞項標示」

企画：江畑 冬生

司会：永山ゆかり

コメンテーター：風間伸次郎

アリュートル語の自他両用動詞における名詞項標示 永山ゆかり

コリマ・ユカギール語の名詞項標示 長崎 郁

チュルク諸語における目的語格選択の要因：サハ語を中心に 江畑 冬生

ポスター発表

—第2日 (6月16日(日)) 11:00～12:50 (28 演習室・29 演習室) —

形容動詞の「ナ」共起と「ノ」共起のコーパス基盤調査 李 在鎬

中国語の全称量化解釈の仕組み 王 慶

Working memory or pitch sensitivity? Pitch accent perception Seth GOSS

by native speakers of Japanese

四モーラ豊語のアクセントの品詞による合流と品詞を越えた合流 高山林太郎

◇退 会

国内通常會員	39 名
国内学生会員	4 名
在外通常會員	1 件
国内団体会員	3 件